

■第5回会議（10月5日）は、懇話会に参加しました

市民参画協働政策研究会（協働ワーキング）のメンバーが、市民参画協働懇話会（有識者や市民公募委員などに長岡京市の協働について意見を伺う機関）の第3回会議に参加しました。

まず、ガラシャ祭、西山森林整備、子育てふれあいルームなど、このまちで進んでいる協働の取り組みについて発表がありました。

その後、懇話会の委員と協働ワーキングのメンバーが、それぞれ市民と行政の視点で意見を交換しました。テーマは「協働してすすめていきたいこと、市民だからできること、市役所だからできること」。

次のような意見が出ました。

- ▽行政と協働で、地域団体やボランティアの登録制度・紹介制度を作れないか
- ▽財源の支援、活動場所の提供、広報協力、共催名義使用許可をしてほしい
- ▽側溝の溝が詰まった、など地域の草の根的な問題は地域の力で解決してほしい



■第6回会議(11月16日)は、再びアンケート分析を始動

第5回会議（第3回市民参画協働懇話会）に参加して感じたことを、話し合いました。「懇話会委員からの提案内容には、協働において行政が担うべきことと、単に行政へのお願いが混在していた。お互いの協働へのイメージに、相違があるのでは」「今まで、協働相手として対団体を考えて調査してきたが、対個人という考え方が抜けていた事に気付いた」などの意見が出ました。

その後、昨年度に実施した、市内の市民活動団体を知るための「市民協働アンケート（第2弾）」について、より深く分析する項目と担当者を決めました。分析した結果は、今後の協働の施策を考えるための資料として活用していきます。

【協働ってな～あに？その④】 協働についての疑問・質問を、“長にゃん”が明快に答えます。



「協働」と「共同」はどう違うの？



長にゃん

例えば、結婚式を思い浮かべてみて。「初めての共同作業です」という司会者の言葉で、新郎と新婦がナイフに手を添え、ケーキカットをする。

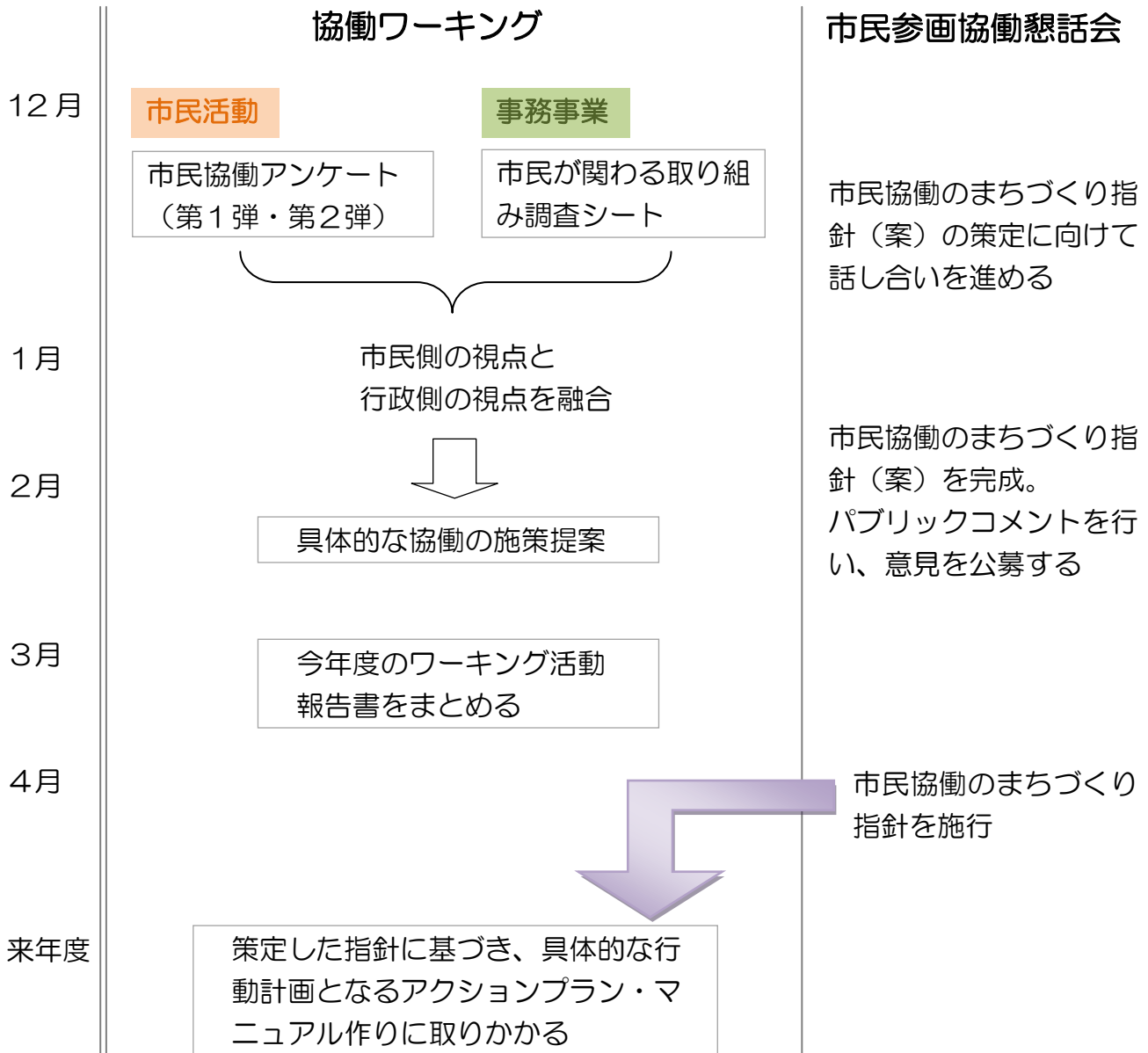
このように、複数の人が同じ条件で、同じ目的のために一緒に行うというのが「共同」ね。「男女共同参画社会」という言葉で使われているのもこの「共同」なのよ。男性と女性が、性の違いに関係なく同じ条件で、一緒に社会を作っていこうとしているのよ。

次に、結婚式の会場を見渡してみても。新郎・新婦、司会者、参加者、ホールスタッフ、衣装スタッフなど、結婚式を成功させるために、複数の人がそれぞれの役割を發揮しながら協力しているわね。これが「協働」なのよ。

「市民参画協働」という言葉は、市民と行政が、それぞれの役割や個性を發揮しながら、どちらが上、どちらが下ということなく対等な立場で、協力していくことを言っているのよ。

■今後の予定 ～具体的な施策の提案へ～

「市民が関わる取り組み調査の結果」（各課に照会済み）と「市民協働アンケートの分析結果」（現在分析中）をもとに、次のように進めていく予定です。市民参画協働懇話会の予定も一緒にお知らせします。



《お知らせ》

今号の「ワーキングメンバーのつぶやき」は、お休みします。
楽しみにしてくださっているみなさん、ごめんなさい。
次号をお楽しみに！

よいお正月を。



* 次回の市民参画協働ニュースは、来年1月下旬に発行予定です。

* 協働に対する疑問・提案・思いなどは、お気軽に下記までお寄せください。

メールアドレス：shiminsankaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp